

# 小川学長の即時辞任を求める声明

去る8月18日に、市立大学改革推進・プラン策定委員会から「大学改革案の大枠の整理について」が示され、21日に大学改革推進本部会議に報告された。この案は、「在り方懇談会」答申に沿ったものであり、多くの教員の意向に反していることは、市長にあてた要望文書に対する2学部1研究科の決議によって明白である。

小川学長は、教員組合との会見の席上でこの決議について「厳しい経済、社会情勢のもと、市立大学が生き残りをかけて、全学をあげて大学改革を進めようとしている中、従来の学部の考え方にとられることは非常に残念なことだと思う」と発言した。これは、学長と学長が選出された教員集団との間に重大な意見の違いが生じたことを示す発言である。少なくとも現行法においては、学長は市長の部下ではなく、選出母体である教員集団に対して第一義的に責任を負っている。教授会の公式見解と明確な意見の食い違いが生じた以上、もはや、学長としての職責を果たすことは出来ない。ただちに辞職することを要求する。また、大学改革案の作成にあたっては、現行法における大学の自治をかえりみず、学長の指名した少数の委員からなる委員会で、各委員に箝口令をしき秘密裏に改革案を作成するような現状は到底許されない。

学長選挙においては、誠実、公正をモットーとし、学内の叢知を結集すると約束したが、当選後のこれまでの学長の行動は、このことに反して、まったく独裁としかいいようのないものであり、その変節は決して許すことはできない。

ここに、改めて学長の辞任を求めるものである。

2003年8月22日

横浜市立大学  
理学部 一楽重雄  
商学部 矢吹 晋  
商学部 平 智之